

文月：第28話「チクチク言葉とふわふわ言葉」

本校の児童は、昨年度の基礎・基本定着状況調査（5年）及び全国学力・学習状況調査（6年）の質問紙調査から、周りから認められているものの、「自分にはよさがあり、自己肯定感をもっている」児童の割合がやや少ないことが分かりました。そこで、今年度は、次の2つのことについて組織的に取り組んでおります。

まず、チクチク言葉をなくし、ふわふわ言葉を多くすることにより、良好な人間関係を築き、安心安全な学校生活を送れるようにすることです。年3回実施しているいじめアンケートを分析しますと、感情的になり、相手が嫌がったり、傷つけたりする言葉をつかうケースが多いことが分かりました。

そこで、昨年度8月から、ちくちく言葉の減少に向けて、教職員間で協議しながら学校全体で取組を開始しました。児童会が劇を演じて、チクチク言葉を使うことにより、相手が傷ついたり、いやな思いをしたりすることを伝えてくれました。また、いじめアンケートに、チクチク言葉に関する設問を加え、チクチク言葉を使った時の状況を一人一人聞き取っていきました。さらに、今年度は、左の画像の右側に書かれている、「いいね」「ありがとう」「だいじょうぶ？」「じょうずだね」などの、ふわふわ言葉をつかって、コミュニケーションを図ることができるように、特別な教科道徳や特別活動等の授業においても、児童に指導しています。昨年度2月には、チクチク言葉を使わなかった児童の割合が65%でしたが、今年度6月には84%に向上しました。今後も、教職員から積極的にふわふわ言葉を投げかけて、その良さを伝えていこうと考えています。

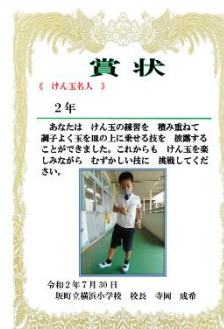


もう一つは、児童個々のよさや努力を”見える化”することです。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために、4・5月は外出が自粛となり、6月の学校再開後も3密を防ぐために、友達と十分なコミュニケーションを図ることが難しい状況にあり、ストレスを感じていると考えられます。昨年度は、運動会などの行事を通して、自分の頑張りや友達の良さを見つける活動を行いました。今年度は、行事の中止や延期が多いため、自分の良さを発揮する場面が限られ、自己肯定感を高める機会が失われているように思います。そこで、児童の作品を貼って、”世界で一つだけの賞状”を作成して、児童の努力を評価し、さらによさを引き出す一助になればと考えました。この賞状は、「ふわふわことばの見える化」と言えるかもしれません。



本来なら夏休み真っ盛りの7月31日に、炎天下に下校する児童を家まで送っていきました。ランドセル姿を見送りながら、「また月曜日に」と投げかけたときに、これからも、学校に来てよかったなと思える声掛けや取組を進めていきたいと思いました。

今年2年7月30日
坂町立蘭浜小学校 校長 寺岡 成希



校長 寺岡 成希